

図書館員が選んだおすすめ本 100冊

ヨコガタ



Yokote City Librarians **One** Hundred Recommended Books 2019



おかえり、
葉の場所で待ってるよ
2019・第73回 読書週間
10/27～11/9



たくさんの中からどんな本を読んだらいいか迷ってしまう、
そんな人に、本を選ぶきっかけとなるブックリストを作成しました。
横手市立図書館で働く図書館員 21 人がそれぞれに選んだ一冊です。

これ面白いから読んでみて！私が選んだ本の話をしてしましよう！
そんな想いを持って図書館でお待ちしています。

あなたの一冊に出会ってほしい。
みなさまに本との新たな出会いが訪れますように。

横手市立図書館

※本の紹介文はニックネームで掲載しています。

※掲載の 100 冊はすべて市内の図書館で借りることができます。
お近くの図書館にないときは予約してください。お取り寄せいたします。

『道具屋殺人事件』

愛川 晶/著 原書房 2007



913.6ア

落語家・寿笑亭福の助とその妻が次々と事件に巻き込まれ、師匠からのヒントを頼りに解決していく、本格落語ミステリー。謎解きは落語の話が基で、知らず知らずのうちに、寄席の世界に興味が沸くはず。シリーズ6弾まで出版。(菅さん)

『マツリカ・マハリタ』

相沢 沙呼/著 角川書店 2013



913.6ア

高校生の柴山は、自分もはや空気同然の存在であると感じている。そんな彼の前に現れた謎の美女「マツリカさん」。冷酷非道で柴山を「犬」と呼び、下僕のように扱う彼女だが…不器用で必死な青春ストーリー。(砂糖さん)

『震える牛』

相場 英雄/著 小学館 2012



913.6ア

未解決の強盗殺人事件の捜査を命じられた刑事が、事件の全貌を暴く社会派推理小説。一つの殺人事件に、食品偽装やBSD問題などが複雑に絡み、それらの問題を隠蔽しようとする企業と警察の攻防も巧みに描かれている。(菅さん)

『何者』

朝井 リョウ/著 新潮社 2012



913.6ア

内定が出ない、理由がわからない。大学生5人が集まり就活対策本部と称してお互いを助け合う。しかし徐々に関係は崩れ始める。SNSに思いや本音を吐露しながら、就活という荒波に飲まれていく若者たちを描く。(わいわい)

『雲上雲下』

朝井 まかて/著 徳間書店 2018



913.6ア

ものがたりはどこへ。誰でも知っている民話の主人公たちが紡ぐふしぎな物語。鍵を握る、しっぽが千切れた子狐は立派に一人前になれるのか。物語の行方は美しい日本語の調べと共に。(⊕)

『赤猫異聞』

浅田 次郎/著 新潮社 2012



913.6ア

明治元年、江戸の大火により伝馬町牢屋敷から三人の重罪人が鎮火までの間解き放ちとなる。鎮火後全員が戻れば無罪、一人でも戻らねば全員が死罪に…混乱の江戸で己の矜持を守ろうと生きる者たちの言葉が胸に刺さる。(おこめ)

『ランナー』

あさの あつこ/著 幻冬舎 2007



913.6ア

天才長距離選手の碧季(あおい)。血の繋がらない妹を母親の虐待から守るために陸上部を辞めるが、それは走れなくなった恐怖から逃げることでと気づく。揺れ動く碧季の感情の起伏が、読むものの心を締め付ける。シリーズ第1作。(菅さん)

『光の王国』

梓澤 要/著 文藝春秋 2013



913.6ア

旅に出た若き西行は、道の奥平泉で若き藤原秀衡と出会う。会うべくして会った二人。縁は続き、互いがすっかり老体となるころ、運命は再び二人を引き合わせる。目の前にある未来は、吉と出るか、凶と出るか。(砂糖さん)

『チグリスとユーフラテス』

新井 素子/著 集英社 1999



913.6ア

異常な人口減少で人類滅亡の時を迎えつつある移民の惑星ナイン。最後の人類となったルナ…。各時代の女性たちが連作短編のようにこの星の盛衰を語っていく。そして感動的なラストシーン、SFの枠を超えたSF超大作。(モフモフ)

『屍者の帝国』

伊藤 計劃×円城 塔/著

河出書房新社 2012

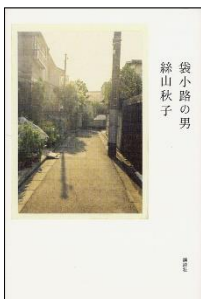


913.6イ

デビューして2年後、34歳で逝去した伊藤計劃が遺した冒頭の30枚を盟友・円城塔が引継ぎ完成。フランケンシュタインの技術が全世界に拡散した19世紀末、英国政府機関の密命を受けた秘密諜報員ワトソンの冒険を描くSF作品。(ノラネコ)

『袋小路の男』

絲山 秋子/著 講談社 2004

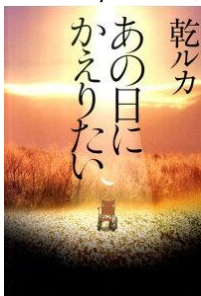


913.6イ

恋人でも友人でもない、緩やかにつかず離れずの男と女。女が男を語る『袋小路の男』と、男が女を語る『小田切孝の言い分』。人間の想いは複雑で一筋縄ではいかぬことが思い知らされる。表題を含む3作の短編集。(菅さん)

『あの日にかえりたい』

乾 ルカ/著 実業之日本社 2010



913.6イ

時を超えて「あの日」に帰る6つの奇譚な短編小説集。『夜あるく』一死の淵をさまよっていた二人が出会ったのはハクモクレンの下。15年前にかけられた言葉を重ねて今日まで生き、偶然出逢えた奇跡の物語。(菅さん)

『星の子』

今村 夏子/著 朝日新聞出版 2017



913.6 イ

林ちひろ中学三年生。カルト宗教に傾倒する両親の影響で小さい頃からちひろの日常は宗教と共にあった。しかし、そんな日常は彼女が成長するに従って徐々に揺らぎ始め…。日常に漂う不穏な空気感が心にじわじわと迫る。(ゆこリン)

『さようなら、オレンジ』

岩城 けい/著 筑摩書房 2013

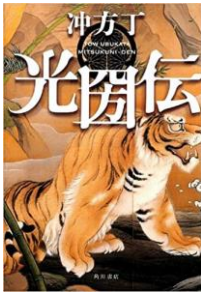


913.6 イ

生まれた土地を離れ、異国の地で暮らさざるを得なくなった女性たちの物語。アフリカ難民のサリマは生きるために働き、新しい言葉を身につけようと奮闘していく。困難にもがきながらも前を向く姿に勇気づけられる。(S)

『光圀伝』

沖方 丁/著 角川書店 2012



913.6 ウ

印籠を手にも全国を旅して周る好々爺といったイメージの水戸黄門こと水戸光圀。しかし、傾奇者と呼ばれた青年時代、荒々しく迷いながら一途に「義」とは何かを追求する姿があった。人間臭い新たな光圀像に会える一冊。(ゆこリン)

『小鳥を愛した容疑者』

大倉 崇裕/著 講談社 2010



913.6 オ

元捜査一課の敏腕刑事はケガのリハビリ中。超天然動物オタクの婦警と共に配属されたのは警視庁いきもの係。犯罪の被害者・加害者に関わる小鳥・ヘビ・カメなどの生き物の世話をしながら、ついでに事件も鮮やかに解決する。(モフモフ)

『空に牡丹』

大島 真寿美/著 小学館 2015



913.6 オ

時は明治。地主に生まれた静助は花火に全てを注ぎ込んだ道楽者。人々の心に安らぎを与えた静助の花火。子孫は彼のことを思い出し、親しみをこめて語り合う。静助は人々の思い出の中にまるで花火のように何度も蘇る。(Y.K)

『RDG レッドデータガール はじめてのお使い』

荻原 規子/著 角川書店 2008



913.6 オ

世界遺産に認定されている玉倉神社の娘、15歳の鈴原泉水子(いずみこ)。奇妙な出来事に遭遇していく中で、自身の謎や秘密が明かされていく。内気な少女が、少しずつ成長していくファンタジー小説。シリーズ第1作。(T)

『恋する狐』

折口 真喜子/著 光文社 2014

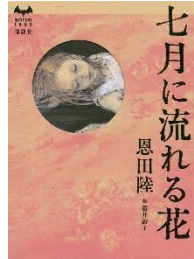


913.6 オ

酒に酔った与謝蕪村は土産の鮎ずしをぶら下げ陽気な千鳥足。ふと我に返ると、目の前は見たこともない光景が広がっていた。狐につままれた蕪村だが、その出会いにありがたみすら感じるのである。表題のほか8作品収録。(砂糖さん)

『七月に流れる花』

恩田 陸/著 講談社 2016

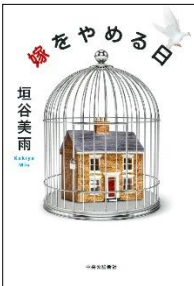


913.6 オ

不気味な“みどりおとこ”によって古いお城に集められた少女たち。何もわからないまま夏休みをそこで過ごすことになったミチルは不安を覚える。少女たちはなぜ集められたのか、はたしてこのお城の正体とは…?(I.K)

『嫁をやめる日』

垣谷 美雨/著 中央公論新社 2017



913.6 カ

突然夫が亡くなり、ショックを受ける妻の夏葉子。義理父母や近所の視線が監視されているように思え、存在が重くなっていく。そんなとき「婚姻関係終了届」の存在を知った主人公がとった行動とは。人生逆転物語。(ことら)

『君たちに明日はない』

垣根 涼介/著 新潮社 2005



913.6 カ

リストラ請負会社勤務の真介は、今日も面接相手が納得して退職してくれるよう四苦八苦。クビを切られる人々には怒りも涙もあるが、真摯さと軽薄さが絶妙な真介のキャラクターで暗くならず、色恋もあり人間ドラマ。(Rin)

『GO』

金城 一紀/著 講談社 2000



913.6 カ

“僕”は在日朝鮮人から在日韓国人へ国籍を変え、民族学校から普通高校に入学する。日本人の女の子に恋をし、自分が在日であることを打ち明けるが―。国籍・民族・差別と葛藤しながら生きる“僕”の青春恋愛小説。(わいわい)

『カゲロボ』

木皿 泉/著 新潮社 2019

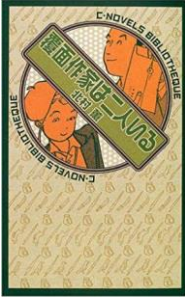


913.6 キ

本物そっくりのロボット＝カゲロボと共存する世界を舞台に、人間の心の痛みを描く作品。カゲロボは、集団の中に紛れ込んでいたり、アンドロイドとして家庭に入り込んで生活している。彼らの目的は一体何なのだろうか?(A2)

『覆面作家は二人いる』

北村 薫/著 中央公論新社 2002



913.6キ

雑誌編集者・岡部の担当する“覆面作家”新妻千秋は大富豪の令嬢。その上頭脳明晰で可憐な美貌の持主。普段は内気なのに外に出ると…。お嬢さま探偵が普段の生活の中で起こる謎を解く、本格ほのぼのミステリー。(モフモフ)

『凶笑面』

北森 鴻/著 新潮社 2000



913.6キ

東敬大研究室に届いたビデオには、奇妙な祭りが映っていた。差出人の学生の元を訪れると、彼は殺害されており…。美貌の女性民俗学者蓮杖那智と、研究助手の内藤三國が、民俗学を背景に事件を解決していく短編集。(su-san)

『宇喜多の捨て嫁』

木下 昌輝/著 文藝春秋 2014



913.6キ

戦国時代の梟雄(残忍で勇猛な人物)といわれる宇喜多直家の物語。4章からなる連作短編集は、それぞれ異なる視点からの直家像が描かれ、読み進めていくにつれ、直家の悲劇ともいえる生涯が明らかになっていく。(T)

『209号室には知らない子供がいる』

櫛木 理宇/著 KADOKAWA 2016



913.6ク

高級マンション『サンクレール』で起こった怪異を描いた5つの連作短編集。幸せな普通の住人たちの心の隙間に入り込んでいく“葵”と言う名の少年は一体何者なのか。終盤に民族学的な要素を含んだホラーミステリー。(ノラネコ)

『嗶う名医』

久坂部 羊/著 集英社 2014



913.6ク

医療現場に携わる六人の名医たちを描いた短編集。ブラックに、そしてリアリティのある描写は、作者自身が現役の医師だから表現できるものなのか。医療用語も多いが、ライトに読める一冊。(T.T)

『シャルロットの憂鬱』

近藤 史恵/著 光文社 2016

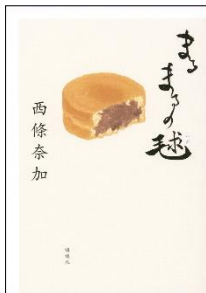


913.6コ

犬は賢い。でも賢いから一緒にいたいわけじゃない。主人公夫婦が出会う謎に、元警察犬のシャルロットがひらめきを与える。凛々しい見た目と反して甘えん坊なシャルロットの描写も楽しいコージョーミステリー。(ふっくん)

『まるまるの毬』

西條 奈加/著 講談社 2014



913.6 サ

食べ物を扱った時代小説は数々あれど、親子三代で営む『南星屋』の諸国菓子はまさに絶品。元武士の主・治兵衛、その娘で菓子に関する記憶力抜群のお永、そしてお永の子で看板娘のお君。三人を軸に物語は進む。(⊕)

『ほんとうの花を見せにきた』

桜庭 一樹/著 文藝春秋 2014



913.6 サ

吸血種族バンブーと、彼らに命を救われた少年との奇妙な共同生活が始まった。しかし、バンブーが人間を匿うことは決して許されない掟破り。やがて少年の過ちによって思いがけない危機を迎える。(I.K)

『うたう警官』 (文庫化に際し『笑う警官』に改題)

佐々木 譲/著 角川春樹事務所 2004

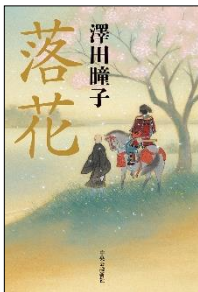


913.6 サ

道警の裏金問題でうたう(証言する)ことになっていた津久井刑事に、婦人警官殺害容疑で射殺命令がくだる。彼の無実を信じる元相棒の佐伯は有志と共に極秘捜査を始めるが…。時間と勝負の情報戦に息飲むシリーズ第1作。(Rin)

『落花』

澤田 瞳子/著 中央公論新社 2019

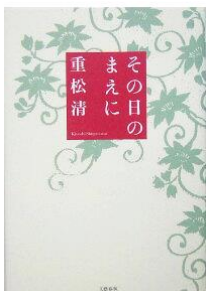


913.6 サ

平将門の乱異聞。平安時代、帝の孫でありながら仏門に入った仁和寺の寛朝。梵唄を極めるためはるばる京から東国へやって来た僧を待っていたのは、平将門をはじめとする荒ぶる坂東武者たち。(⊕)

『その日のまえに』

重松 清/著 文藝春秋 2005



913.6 シ

昨日まで一緒に、明日からも同じように生きるはずだった…。訪れる「その日」を前にして生と死の意味と幸せのあり方を色々な目で見つめていく。ドラマ化・映画化もされた、読み進むほどに涙があふれてくる連作短編集。(Rin)

『ブラックボックス』

篠田 節子/著 朝日新聞出版 2013

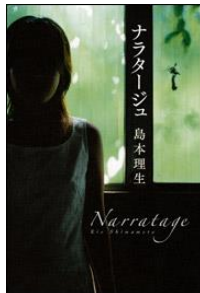


913.6 シ

ハイテク最先端サラダ工場「後藤アグリカルチャー」その生産現場で何が起きているのか…。フィクションとは思えないほど描写が丁寧でリアリティがある。食の安全や労働問題などを考えさせられる長編サスペンス作品。(こたら)

『ナラタージュ』

島本 理生/著 KADOKAWA 2005



913.6シ

主人公の工藤泉が学生時代を回想する形で物語が進む。辛い時に寄り添ってくれた人への秘めた恋、求め互いにひかれ合う心、見えぬ未来に告げた別れ。泉の逡巡する気持ち、美しい風景の描写とともに描かれ、切なさ募る恋愛小説。(菅さん)

『マイ・ディア・ポリスマン』

小路 幸也/著 祥伝社 2017



913.6シ

元捜査一課のお巡りさんとコワモテの副住職。幼馴染の二人は、互いに女子高生と知り合うことに。話の輪は広がり、町の人々、上司、裏社会の人間まで巻き込んでゆく。時を越え、世代を越え、皆がつながる物語。(砂糖さん)

『麦本三歩の好きなもの』

住野 よる/著 幻冬舎 2019



913.6ス

主人公の麦本三歩は大学図書館勤務の20代の女性。勤務先を決めたのは本と図書館の匂いが好きだから。時には自分に酔って赤い口紅で出勤する。好きなものから楽しさを見つけて生きる、彼女の何気ない日常を描く。(ろくすけ)

『天国はまだ遠く』

瀬尾 まいこ/著 新潮社 2004



913.6セ

命を絶つため、見知らぬ土地へと向かった千鶴。もう終わりにする一。そう決めたのに、なぜか爽快な目覚め。民宿の主人やその土地の人々、豊かな自然に触れるうち千鶴の中で何かが変わっていく。癒しの物語。(S)

『くうねるところすむところ』

平 安寿子/著 文藝春秋 2005

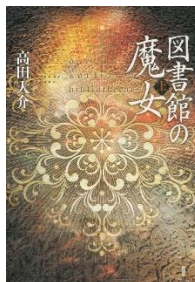


913.6タ

恋も仕事も行き詰った梨央は、一人のトビ職人に出会い、建設業界へ転職。ところが、入った工務店には、コワ〜イ女社長に厄介な現場監督と前途多難。家づくりの魅力にとりつかれた、元気いっぱい働く女子の物語。(A2)

『図書館の魔女 (上・下)』

高田 大介/著 講談社 2013



913.6タ

とある技術を習得したキリヒトは、王国の図書館で魔女と呼ばれる少女、マツリカに仕えることになる。いわゆる“剣と魔法”要素はごく薄く、緻密に構成された世界観を楽しむ、大人におすすめの大長編ファンタジー。(ふっくん)

『上流階級 富久丸百貨店外商部』

高殿 円/著 光文社 2013



913.6タ

バイトから百貨店の契約社員となり洋菓子部門などで名を上げた静緒は、突然紅一点の外商部の配属に。月1500万円のノルマと、勝手に違う世界に奮闘するが…。知られざる外商の華やかさと厳しさも楽しめるお仕事小説。(Rin)

『マークスの山』

高村 薫/著 早川書房 1993



913.6タ

刑事・合田雄一郎シリーズ第1作。ある殺人事件を追う合田。その事件に繋がる、「マークス」という名前、過去に起きた殺人事件、心に闇を抱えた青年…。事件は悲しいラストへ繋がっていく。重厚で読み応えのある作品。(T)

『春のめざめは紫の巻 新・私本源氏』

田辺 聖子/著 実業之日本社 1983

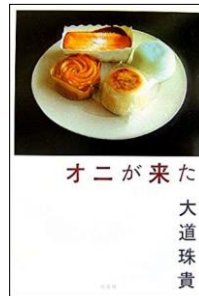


913.6タ

新源氏いえいえ私本源氏。光源氏といえば自他ともに認める美男。しかし、そこは田辺源氏、おきゃんな紫の上にとじたじの、なんとも情けないおっちゃんにされてしまう。大笑したい方は卵に目鼻のこちらをぜひ。(⊕)

『オニが来た』

大道 珠貴/著 光文社 2007



913.6ダ

40代で結婚。夫に別居を告げられ、なぜか夫の実家で暮らすことになった私。夫との暮らしを待ち続けるが、次第に同居する人々を自分が看取らなければと家族愛が高まる。老後、介護…暗い話題もほのぼのとする一冊。(Y.K)

『ハケンアニメ!』

辻村 深月/著 マガジンハウス 2014



913.6ツ

憧れのアニメ監督と仕事ができる事になり喜ぶプロデューサーの香屋子。しかし彼はほとんどないワガママ男。突然仕事を放り出し失踪してしまい…。アニメ業界に関わる人々の熱い愛にあふれたお仕事小説。(I.K)

『ターンオーバー』

堂場 瞬一/著 角川春樹事務所 2014



913.6ド

高校野球・アメリカンフットボール・やり投げ・マラソン・ラグビー・プロ野球、6種目を題材に1話ずつ描いたスポーツ短編集。アスリートの葛藤や苦悩、そして試合の臨場感を伝える。(T.T)

『夢見る帝国図書館』

中島 京子/著 文藝春秋 2019



913.6ナ

もし図書館に心があったなら、人や動物や本たちにどんな思いを寄せたのか。波乱の時代を見守った日本初の国立図書館、そしてその場所を愛したひとりの女性の思い出、二つの物語が交錯して完成する一冊。(ふっくん)

『チマチマ記』

長野 まゆみ/著 講談社 2012



913.6ナ

関係はちょっぴり複雑、でもとっても仲良しな大家族・宝来家。新たに一家に加わったオス猫・チマキの視点で個性的な家族模様が描かれる。身体に良くて美味しそうな料理もたくさん登場。(I.K)

『護られなかった者たちへ』

中山 七里/著 NHK出版 2018



913.6ナ

じわじわ死に向かう恐怖と絶望。善人として知られる人物たちが殺された。死因は餓死。なぜ犯人はこのような方法をとったのか？世の不条理から起きた事件を宮城県警の刑事が追う。貧困と福祉に焦点を当てた社会派小説。(S)

『アルバトロスは羽ばたかない』

七河 迦南/著 東京創元社 2010



913.6ナ

七海学園シリーズ第2作。高校の文化祭に起きた校舎屋上からの転落事件を、主に保育士・北沢春奈が出くわした4つの事件と共に物語は進んでいく。終盤の伏線回収と、どんでん返しはお見事。(ノラネコ)

『君はレフティ』

額賀 濤/著 小学館 2016



913.6ヌ

文化祭前の高校内で落書き事件が続発。夏休み中、交通事故で記憶喪失になった真樹は、落書きのメッセージが自分宛てではないかと感じ始める。そこには二人の親友が持つ秘密と真樹が失くした記憶が深く関わっていた。(おこめ)

『まんまこと』

畠中 恵/著 文藝春秋 2007



913.6ハ

“しゃげ”の畠中恵のもう一つの人気シリーズ。妖は出て来ない、ほろ苦い恋愛話ありの人情時代捕物小説。お気楽な性格で周りをやきもきさせている名主の息子・麻之助と悪友二人が江戸の町のもめごとを解決していく。(モフモフ)

『店長がバカすぎて』

早見 和真/著 角川春樹事務所 2019

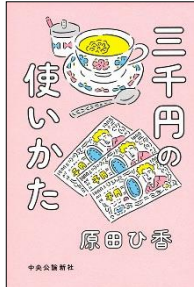


913.6ハ

書店の契約社員京子のお仕事系シンデレラストーリー。職場環境に悩みのつきない彼女の心の支えは大好きな本。コメディタッチの軽快な文章は、息抜きの読書にぴったり。(A2)

『三千円の使いかた』

原田 ひ香/著 中央公論新社 2018



913.6ハ

後厨家の人々が生活やお金の問題に直面し向き合っていく物語。結婚・子育て・離婚・老後など問題は色々だが、お金の大切さや使い方、人生は変わるということを教えてくれる。物語を通して節約術も知ることができる。(こたら)

『消し屋 A』

ヒキタ クニオ/著 文藝春秋 2003



913.6ヒ

消し屋の幸三のもとに馴染みのヤクザから「プロ野球選手を消してほしい」という依頼が来る。それも殺さずに。幸三は生活パターンから生い立ちまで徹底的に調べ上げ、追い詰める。冷酷さの中に人情を感じさせる物語。(わいわい)

『近所の犬』

姫野 カオルコ/著 幻冬舎 2014



913.6ヒ

自身では犬を飼うことができないため、近所で散歩中の犬を見ることを楽しみとする作者の私小説。犬愛だけに留まらず、初めて出会った飼い主に声をかけるテクニックや、飼い主を見る鋭い観察眼に舌を巻く。(T.T)

『バチカン奇跡調査官』

藤木 凜/著 角川書店 2007



913.6フ

世界最小の独立国・バチカン市国。世界中の奇跡の真偽を調査する『生徒の座』に、アメリカから1件の奇跡調査が舞い込んだ。セントロザリオ教会内で複雑に絡み合う事件に、才色兼備な調査員、平賀とロベルトが挑む。(su-san)

『神様の裏の顔』

藤崎 翔/著 KADOKAWA 2014

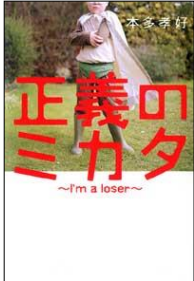


913.6フ

舞台はある男の通夜。多くの人の信頼を集めていた彼との思い出を参列者ひとりひとりが思い返すうち、神様のようだと思われていた言動に疑惑が持ち上がる。読経から通夜後の控室まで、一瞬も気が抜けないミステリー小説。(おこめ)

『正義のミカタ～I'm a loser～』

本多 孝好/著 双葉社 2007



913.6 木

いじめられっこの亮太。大学進学を機に過去の自分と決別するはずが、入学早々思わぬ事態に陥る。その窮地を救ったのが、正義のミカタ研究部。この出会いをきっかけに亮太は心身共に成長してゆく。(A2)

『烏に単は似合わない』

阿部 智里/著 文藝春秋 2012



913.6 マ

舞台は「八咫鳥」の一族が支配する世界。若宮の後候補に、四人の美しい姫君が選ばれた。あせび、浜木綿、真ほの薄、白珠。姫君の思惑と陰謀、若宮への恋心の結末はいかに？松本清張賞受賞作。(ずみやん)

『瑕疵借り』

松岡 圭祐/著 講談社 2018



913.6 マ

瑕疵借りとは、あえて事故物件に住むことで報酬を得る者。専門の瑕疵借りである藤崎は大家や管理会社の依頼を受け、訳あり物件を渡り歩く。そして次々にその物件の瑕疵を洗い流していく…。(I.K)

『九月の恋と出会うまで』

松尾 由美/著 新潮社 2007



913.6 マ

主人公の志織は自室のエアコンの穴から聞こえてくる声に気が付く。その声の主は一年後の未来から語りかけているといい、志織にある事を依頼する。過去と現在、未来を越えて結ばれるラブストーリー。(ずみやん)

『おばちゃんたちのいるところ』

松田 青子/著 中央公論新社 2016



913.6 マ

失恋したわたしの元に、自殺したはずのおばちゃんが現れ…。失業中の新三郎の家に、二人組のセールスレディーがやって来て…。落語や歌舞伎の演目を題材にしてうまくいかない現代人と幽霊たちの交流を描く短編集。(Y.K)

『殺人鬼フジコの衝動』

真梨 幸子/著 徳間書店 2012

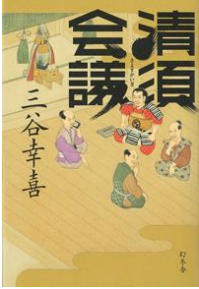


913.6 マ

一家惨殺の生き残りとなった少女フジコが殺人鬼となる人生の物語。罪に罪を重ね引き返すことができなくなっていく様は衝撃的。あまりのリアリティさにフィクションとは思えない作品。あとがきまで読んでこそその一冊。(ノラネコ)

『清須会議』

三谷 幸喜/著 幻冬舎 2012



913.6ミ

信長を失い、織田家のその後を決めるために開かれた清須会議。集まった家臣や武将、見守る女たちの五日間を劇作家がユーモラスに描く歴史小説。策略、打算、愛憎渦巻く壮大な腹の探り合い、会議を制すのは誰か?(おこめ)

『未来』

湊 かなえ/著 双葉社 2018



913.6ミ

いじめ・虐待・育児放棄を受けている章子は、未来の自分から届いた手紙に希望をつないでいた。しかし、周囲に翻弄され気持ちが変化してゆく。友人や母もまた絶望のどん底にいる事を知り、章子はついにある決意をする。(A2)

『クレオパトラ (上・下)』

宮尾 登美子/著 朝日新聞社 1996



913.6ミ

18歳で女王となったエジプトのクレオパトラが権謀術数に巻き込まれ、ローマに戦いを挑んでいく。プトレマイオス朝期に、クレオパトラを取り巻く複雑な人間関係を読みやすく描いた一冊。(T.T)

『海辺のカフカ (上・下)』

村上 春樹/著 新潮社 2002



913.6ム

15歳の少年は家出をして小さな図書館に暮らし始めた。一方、猫と会話が出来る不思議な老人ナカタさんは謎の人物をきっかけに旅に出る。交錯する二人の世界。現実と非現実が入り組んだ村上春樹ワールドを愉しめる。(ゆこりん)

『メアリー・スーを殺して』

乙一ほか/著 朝日新聞出版 2016



913.6メ

乙一、中田永一、山白朝子、越前魔太郎ら注目の作家四人に加え解説に安達寛高を迎えた、異色で豪華なアンソロジー。それぞれ独特の世界観を持つメンバーだが、なぜか不思議な調和を見せる幻想的な一冊。(ふっくん)

『すべてがFになる』

森 博嗣/著 講談社 1996



913.6モ

天才・真賀田博士の所有する孤島で、博士自身の凄惨な遺体が見つかった。事件解明に動くのは、キャンプで島を訪れていたN大の犀川助教授と教え子萌絵。壮大なプログラミングの結末に驚く、色あせない密室トリック。(su-san)

『熱帯』

森見 登美彦/著 文藝春秋 2018



913.6 円

「汝にかかわりなきことを語るなかれ。」物語はこの冒頭から始まる。沈黙読書会で出会った一人の女性。森見氏は謎に包まれた一冊の本「熱帯」の秘密を知ることとなるのだが…。幻の本をめぐる物語。(ずみやん)

『れんげ野原のまんなかで』

森谷 明子/著 東京創元社 2005



913.6 円

毎日穏やかな時間が流れている秋庭市立秋庭図書館。そこで起こる数々の出来事と、それらの解決に取り組む図書館員たちの奮闘の日々を描く。ミステリー要素をほんの少し含んだ、優しい日常の物語。(T)

『鳶屋 TSUTAYA JUZABURO』

谷津 矢車/著 学研パブリッシング 2014



913.6 円

「新しいものが作りたい。吉原から江戸を驚かせたい。」黄表紙や浮世絵の版元である鳶屋重三郎は、吉原で得た人脈と奇抜なアイデアを駆使してヒット作を生み出していく。彼と彼の出版に関わった人たちの物語。(ろくすけ)

『百年法 (上・下)』

山田 宗樹/著 角川書店 2012



913.6 円

原子爆弾によって壊滅した日本は、人間の不老化処置“HAVI”の施術により、奇跡の復興を遂げた。しかし西暦 2048 年、処置後百年で生存権を放棄する生存制限法が制定されようとしていた。生きることの意味を問う近未来 SF。(su-san)

『クドリヤフカの順番』

米澤 穂信/著 角川書店 2005



913.6 円

文化祭当日、校内で奇妙な窃盗事件が相次ぐ。現場には「十文字」と名乗る人物からの犯行声明が。古典部員4人が暴く事件の真相とは…。そして「十文字」の正体とは一体？古典部シリーズ第3作。(ずみやん)

『忍びの国』

和田 竜/著 新潮社 2008



913.6 円

時は戦国。織田軍勢を迎え撃つのは、「虎狼の族が潜む国」といわれる、忍者の国・伊賀。幾人もの思惑乱れる戦いの中を、伊賀一の忍び、無門が駆け抜ける。「天正伊賀の乱」の史実に基に描かれる歴史エンタテインメント。(su-san)

ここからはエッセイや
ノンフィクションの
ジャンルから選んだ
おすすめ本です



『杖ことば』

五木 寛之/著 学研パブリッシング 2014



ことわざ力を磨く。
山のように情報が氾濫
する現代にあって、先人
の知恵の塊のような“こ
とわざ”は、著者自身を
ささえる杖となってけれ
る言葉だった。先に進
めなくなった時、杖こと
ばをさがしてみてもは。

914.6 イ

(㊤)

『そうか、もう君はいないのか』

城山 三郎/著 新潮社 2008



914.6 シ

経済小説の名手、城山
三郎が亡き妻への思い
を率直に綴ったエッセ
イ。思わずこそばゆい気
持ちになるほど、妻への
愛情に溢れた文章はま
るでラブレターを讀ん
でいるよう。最愛の伴侶
を失った夫の思いが痛
い程伝わる。(ゆこりん)

『今日一日がちいさな一生』

海原 純子/著 あさ出版 2016



914.6 ウ

タイトルのほかにも「小
さなことを楽しむ敏感
さ」など、心に響く言葉
がある。何気ない生活
を記していても、心療内
科の医師らしい細やか
な気づきが込められて
いて、癒しと共にそっと
背中を押してもらえるエ
ッセイ集。(Rin)

『タマネギのひみつ。』

黒柳 徹子/著 祥伝社 2013



914.6 ク

お客様を部屋に招いて
ばかりいる黒柳徹子が
今回はゲスト。聞き手は
糸井重里。彼女がピン
ズスクワットする話、大
好きなパンダの話、芸能
界・テレビの話など、マ
シングトークでしゃべ
りつくす。(T.T)

『しあわせになりたい研究』

五味 太郎/著 大和書房 2003



914.6 コ

しあわせになりたい、で
もしあわせてなんだ？
「シンデレラ」や「赤ず
きん」など、誰もが知っ
ている物語を絵本作家
・五味太郎が独自の
視点で読み解き、しあ
わせの輪郭をたどる。
超個性派エッセイ。(ふ
っくん)

『着ればわかる!』

酒井 順子/著 文藝春秋 2010

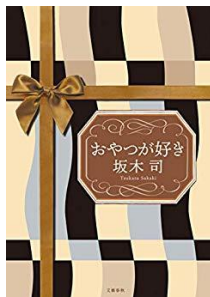


914.6 サ

自分とはかけ離れた世界。そこに身を置くことは叶わなくても、少しでも近づいて見てみたい! セーラー服や十二単など 18 の本物の衣装に袖を通した扮装体験エッセイ。衣装に対する深い考察は観察眼の鋭い著者ならではの。(おこめ)

『おやつが好き』

坂木 司/著 文藝春秋 2019



914.6 サ

読んだら無性にお菓子が食べたくなる?!『和菓子のアン』の作者の初エッセイ、テーマはやっぱりお菓子。銀座の名店のお菓子から地方の素朴なお菓子まで、作者がこれまで食べてきたお菓子の話がギュッと詰まった一冊。(モフモフ)

『いのちの車窓から』

星野 源/著 KADOKAWA 2017



914.6 ホ

シンガーソングライターであり俳優である彼が見せるもう一つの顔、文筆家。雑誌で連載中のエッセイを加筆して単行本化。過去の不遇な出来事でさえ淡々とした文面で笑いを誘う。悩んだ時に背中を押してくれる一冊。(ノラネコ)

『神さまたちの遊ぶ庭』

宮下 奈都/著 光文社 2015



914.6 ミ

一家が一年間移住した場所は、北海道のトムラウシ。そこは、小中学生が十五人の、何もなく、泣きたい程美しい“カムイミントラ(神々の遊ぶ庭)”だった。のちに本屋大賞受賞した作者の、生きることを考えさせられるエッセイ。(su-san)

『じじばばのつぼ』

群 ようこ/著 新潮社 2019



914.6 ム

店員に大声で説教する「俺様じじ」や行列を無視して先頭に割り込む「ホームドアばば」など思わず共感してしまう「じじばば」の 24 のエピソードを紹介。こうはなるまいと決意する著者の表現が愉快的痛快エッセイ。(ことら)

『まいにちを味わう』

吉沢 久子/著 あさ出版 2017



914.6 日

思いのままに生きるのが人生の理想、そうはいかないのが現実。迷った時は迷っていい。嫌なことも悲しいことも、プラスに変えていこうとする力が必要なのだ。人生の先輩のアドバイスとして参考にしたい一冊。(砂糖さん)

『毎日っていいな』

吉本 ばなな/著 毎日新聞出版社 2017



914.6ヨ

夫の実家に行ったこと、新しく始めてみた習い事、長い付き合いの友達との交流など、作者の毎日に起こるふとした瞬間を、やさしい眼差しでつづったエッセイ。小さな生活が幸せだと感じられる作品。(ヨッシー)

『無菌病棟より愛をこめて』

加納 朋子/著 文藝春秋 2012



916カ

2010年、急性白血病を発症した著者によるノンフィクション。過酷な闘病の日々を、克明かつ丁寧に、そしてユーモアを交えて綴っている。病気に関わる全ての人々への著者からのメッセージが込められている。(T)

『君について行こう』

向井 万起男/著 講談社 1995



916ム

宇宙飛行士・向井千秋さんの夫であり、病理医である著者。チアキちゃんとの出会いから選抜試験、結婚、宇宙飛行までのカウントダウンをユーモアあふれる文章でつづる。マキオちゃんの妻への愛があふれるエッセイ。(わいわい)



ここからは外国の作家による作品から選んだおすすめ本です

『ヘヴンアイズ』

デイヴィッド・アーモンド/著 金原 瑞人/訳 河出書房新社 2003



933.7ア

孤児院から逃げ出した三人は自由を求めて筏で川を下るが、真っ黒な泥が広がるブラックミッドウンで座礁。水かきをもつ少女と奇妙な老人に出会う。不気味な展開からは想像できない結末が待っている幻想的な物語。(S)

『書店主フィクリーのものがたり』

ガブリエル・ゼヴィン/著 小尾 芙佐/訳 早川書房 2015



933.7ゼ

主人公が孤児を引き取ったことをきっかけに、島唯一の書店に人が集まり、読書の輪が広がってゆく。妻を失い頑なになっていた主人公の心の変化を穏やかに描く物語。本屋大賞翻訳小説部門第1位に選ばれた作品。(ふっくん)

『わたしを離さないで』

カズオ・イシグロ/著 土屋 政雄/訳
早川書房 2006

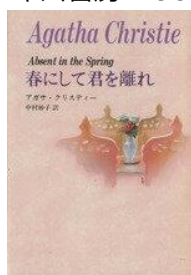


933 イ

「あなた方の人生はもう決まっています」。ある目的のために寄宿学校に集められた子どもたち。読み進めるごとに解明されていく物語の真実は残酷だが、運命を受け入れた登場人物たちの生き方は悲しくも美しい。(ゆこりん)

『春にして君を離れ』

アガサ・クリスティー/著 中村 妙子/訳
早川書房 1981



933 カ

子育てを無事に終えた主婦ジョーンは旅先で列車が不通になり、ありあまる時間を今までの人生を振り返る事に使う。そこで見えてきたものは？ロマンスなのにサスペンス。クリスティーがメアリー・ウェストマコットの名で書いたロマンス小説。(⊕)

『日はまた昇る』

ヘミングウェイ/著 高見 浩/訳
角川春樹事務所 2000



933 ヘ

戦争が終わり、自由な雰囲気が溢れる1920年代のパリ。ジェイクは奔放的な女性ブレットに翻弄されながら、友人たちと自墮落的な日々を送る。ヨーロッパの美しい情景と、若者たちの人間模様を描いた、著者の代表作。(わいわい)

『ダメ女たちの人生を変えた奇跡の料理教室』

キャスリーン・プリン/著
村井 理子/訳 きこ書房 2017



936 フ

包丁が怖い、調理法が分からないなど、様々な理由から料理に苦手意識を持つ女性たち。加工食品やジャンクフードに頼りきりの生活が、ある料理教室をきっかけに変わっていく。食への意識が変わるノンフィクション。(S)

『夜と霧』

ヴィクトール・E・フランクル/著
池田 香代子/訳 みすず書房 2002



946 フ

ドイツ収容所での体験記。著者は心理学者として、体験した事実と過酷な日々の中で、収容者たちの心がどのように変わっていくのかを冷静に記している。表現が生々しく胸に刺さる。人間とは何かを問いかけるロングセラー。(ことら)

『ミレニアム 1 ドラゴン・タワーの女』

スティグ・ラーソン/著 岩澤 雅利/訳
早川書房 2008



949.8 ラ

偽情報を掲載した裁判により窮地に立たされた雑誌、『ミレニアム』の編集長ミカエル。彼の元に40年前の失踪事件の再調査が舞い込んだ。社会性は無いが超優秀な調査員、リスベットと共に謎と事件を解く、北欧ミステリー。(su-san)

ヨコワン 2019
図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

2019 年 10 月 19 日

横手市立図書館

【問合せ】

図書館課(雄物川図書館) 電話 0182-22-2300
〒013-0205 横手市雄物川町今宿字鳴田 133